



通知表が変わります

本校では、教育課程編成の基準である学習指導要領を踏まえ、通知表は新しい学力観をもとにした評価で表記していくことにしました。

学習指導要領の改訂

近年、情報化・グローバル化の進展や AI の飛躍的な発達により、社会は大きく変化しています。このような予測困難な時代にあっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現し、そして明るい未来を共に創っていきたいという願いのもと、2020年に学習指導要領改訂が行われました。

新しい学習指導要領で育む資質・能力とは？

新しい学習指導要領では、教育課程全体や各教科などの学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力、人間性など」の3つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育てていくことを目指します。

「知識及び技能」は、個別の事実的な知識のみでなく、習得した個別の知識を既存の知識と関連付けて深く理解し、社会の中で生きて働く知識となるものも含むものです。そして、その「知識及び技能」をどう使うかという、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力など」、学んだことを社会や人生に生かそうとする「学びに向かう力、人間性など」を含めた「資質・能力」の3つの柱を、一体的に育成します。



学習指導要領の改訂に沿って、通知表の評価項目も変更

○すべての教科が3つの柱で統一

昨年度までの通知表の評価の観点も「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価をしていましたが、「知識・技能」の評価が多く、「知識・技能」偏重の評価になっていました。子どもたちに育む「資質・能力」はバランスが重要である点を鑑み、どの教科も、1つの観点で1つの評価とします。

○新しい学力観をもとにした評価の方法

これまで「知識・技能」やの評価について、比較的单元ごとに評価を行っていたり、理解度や習熟度を相対的に判断しながら評価したりするような項目となっていました。しかし、新学習指導要領を踏まえた新しい評価では、既習事項を活用したり別の単元の学習と関連させたりすることも加わってきます。

教科	観点	◎十分達成している ○おおむね達成している △さらに努力しよう	評価
国語	知識・技能1	学習した漢字を正しく読み書きしたり、文章の中でも適切に使うことができる。	
	知識・技能2	言葉の意味や使い方を理解して、適切に使うことができる。	
	知識・技能3	筆遣いや文字の組み立て方を理解し、字形を整えながら正しく書くことができる。	
	思考・判断・表現1	話すこと・聞くことを通じて、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。	
	思考・判断・表現2	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりしたことを書き表すことができる。	
	思考・判断・表現3	物語や説明文などの内容や要旨を読み取ることができる。	
	思考・判断・表現4	登場人物の心情や場面についての描写などを味わいながら、音読することができる。	
	主体的に学習に取り組む態度1	音読を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをまとめたりしながら、言葉のもつよさに気づこうとしている。	
	主体的に学習に取り組む態度2	進んで読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。	



国語	知識・技能	日常生活に必要な国語の知識・技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
	思考判断表現	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域について、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。
	主体的に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているとともに、進んで読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。
社会	知識・技能	日本の政治の考え方や仕組みや働き、先人の業績や文化遺産、日本と関係の深い国々の生活について理解し、各種資料を通して、情報を調べまとめている。
	思考判断表現	日本の政治と歴史に関する社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握し、解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことなど説明したり議論したりしている。
	主体的に取り組む態度	社会のことがらに関心をもち、主体的に問題解決をしようとしたり、学習したことを社会生活に生かそうとしている。

したがって単元テストだけでなく、授業中の学び方を観察したり、ノートやワークシートから学びの過程等
を評価したりして総合的に評価することになります。評価は単元ごとの評価ではなく、「知識・技能」
も教科で1つとなります。「思考・判断・表現」について、例えば国語は、基礎的な「知識・技能」
をうまく活用しながら、自分の思いや考えを広め、わかりやすく人に伝えるために表現する力を評
価するので、「読む力」「話す力」「書く力」を個々に評価するのではなく総合的に評価すること
になります。

○道徳、総合的な学習の時間、総合所見について

今まで同様、子どもたちの学びの様子や変容を記述していきます。学習については、個人内評価
なども含め、総合所見欄に記述していきます。3、4年生は、外国語活動についても学びの様子を記
述していきます。2学期は懇談会があるので、口頭でお話させていただきます。

「どのように学ぶか」も重視 キーワードは「主体的・対話的で深い学び」の視点

子どもたちが能動的（アクティブ）に学び続ける「アクティブ・ラーニング」の視点から、「何を学ぶか」
だけでなく、「どのように学ぶか」を重視して、学校の授業を改善していきます。子どもたちが学んだ一つ一つの知識が
つながり、「わかった」「おもしろい」と思える授業、周りの人たちと共に考え、新しい発見や豊かな発想が生まれる
授業などを工夫して、子どもたちの資質・能力を育てていきます。

保護者の皆様へお願い

子どもたちに必要な資質・能力を育てるためには、学校の授業だけではなく、家庭や地域の皆様の理解と協
力が欠かせません。学校で学んだことを日常生活で活用したり、家庭や地域での経験を学校生活に生かしたり
することがとても大切です。

そのためにも、通知表を見る際には、

- その学年で身に付けるべき学習内容が確実に身に付いているか、各教科の「できた」を確認
- 教科で得意・不得意の傾向を確認
- 教科を横断している3つの観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」で得
意・不得意な資質・能力の傾向を確認

を注意してみてください。併せて、通知表は子どもたちのやる気を育てることが重要であることを考え、
よいところはたくさんほめ、不得意なところはどのように頑張ったらよいか、一緒に考えていただけ
るとありがたいです。